

総論

学習内容

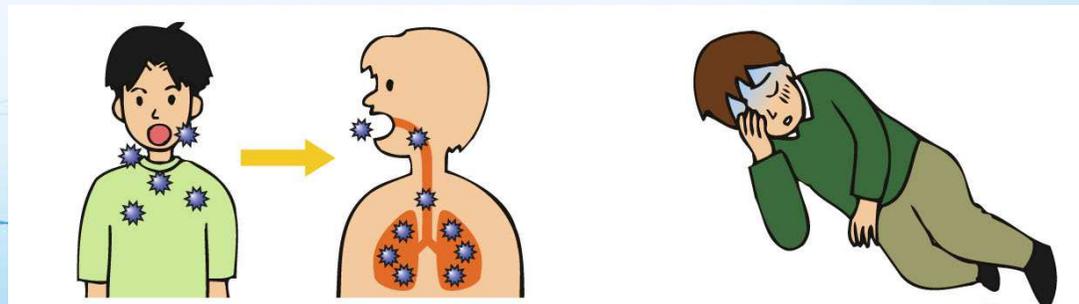
1. 感染とは
2. 感染対策の目標
3. 感染対策の組織
4. 感染対策における各部門の役割

1. 感染とは

- 感染



- 感受性のある宿主：特定の病原体への効果的な抵抗力を欠くヒトのこと



感染成立に必要な要素



医療関連感染

医療機関(在宅医療も含む)において患者が原疾患とは別に罹患した感染症をいう。

- 患者自身のもつ菌による内因性感染や菌交代症などによるものも含む。
- 医療従事者が施設内で感染した場合も該当する。
- 入院患者が入院中に感染し、退院後に発症した場合も含む。

主な医療関連感染

- 尿道留置カテーテル関連尿路感染(CAUTI)
- 血管内留置カテーテル関連血流感染(CLABSI)
- 人工呼吸器関連肺炎(VAP)
- 手術部位感染(SSI)

医療関連感染の弊害

入院患者の5～10%が入院中に感染症に罹患



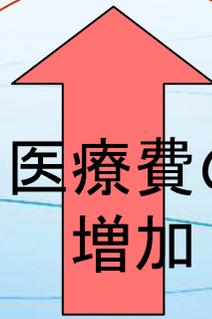
死亡率の
増加



罹患率の
増加



入院期間
の延長



医療費の
増加



治療待機患者
の増加

改正医療法

—医療の安全の確保—

2006年6月の医療法の一部改正により医療機関の管理者に対する医療安全の体制確保が義務化。

■ 実施事項

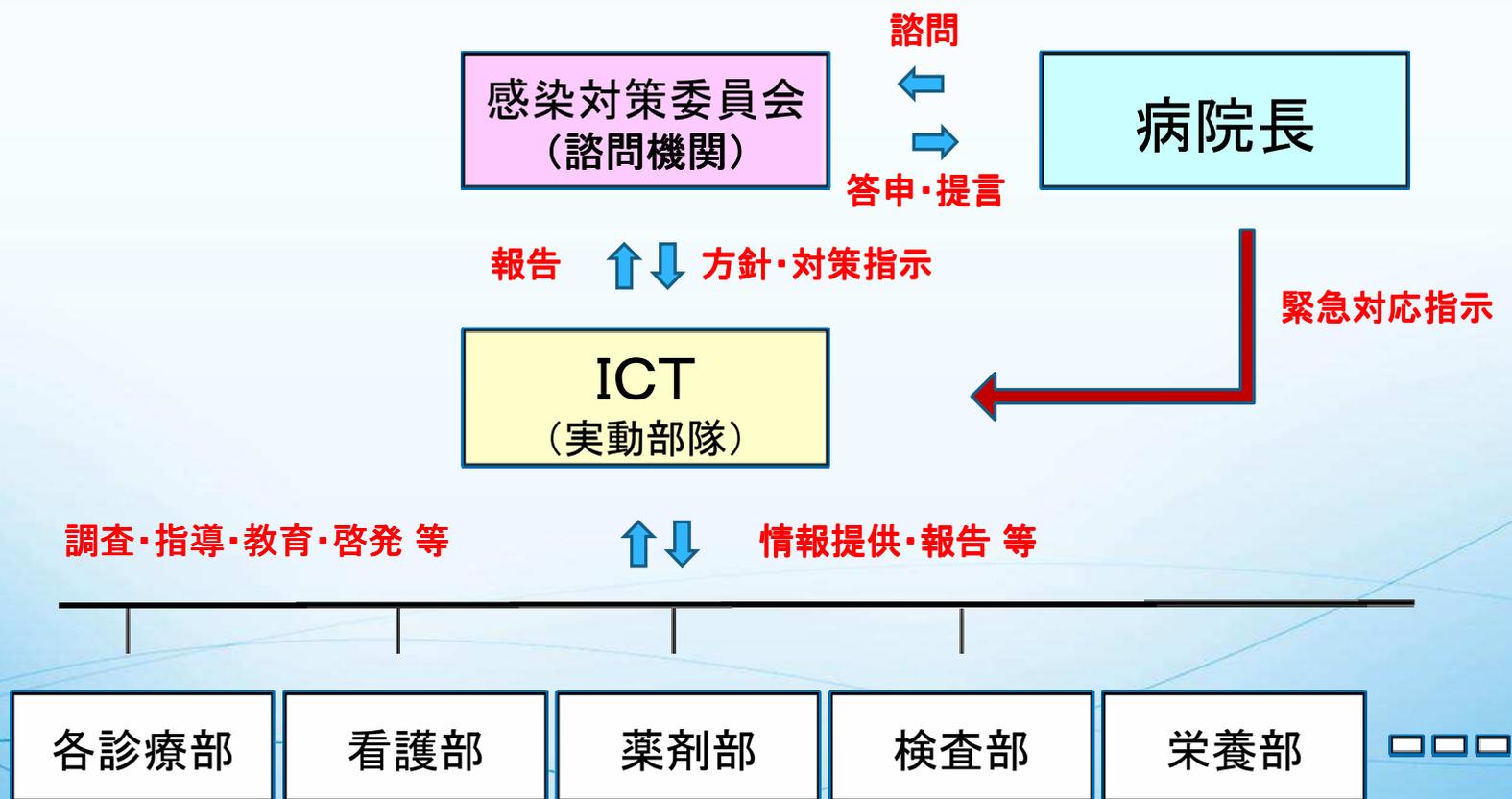
- 1) 感染対策指針の策定
- 2) 院内感染対策委員会の開催
- 3) 職員全員を対象にした研修会の実施
- 4) 感染症発生状況の報告と感染対策の推進

2. 医療関連感染対策の目標

- 患者の安全を確保する。
- 医療従事者、来訪者、その他の医療環境にいる人々の安全を確保する。
- 上記 2つの目標をコスト効率の良い方法で達成する。

3. 感染対策の組織

—ICTが病院長直轄の組織—



感染対策委員会の主な役割

- 感染対策プログラムの目的と目標の決定
- 病院方針に対して病院対策に関する積極的提言
- 病院の感染対策規則の見直しと評価
- 感染対策体制全体の評価・検討
- 感染対策上の問題へのサポートとコーディネート

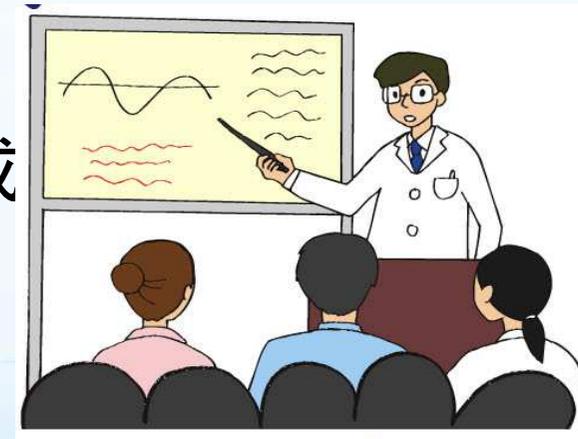
感染対策委員会の構成例

- 病院長等の医療機関の管理者が積極的に関わるとともに、診療部門、看護部門、薬剤部門、臨床検査部門、事務部門等の各部門を代表する職員により構成される。
- その他、健康管理部門、中央滅菌材料部、CEセンター放射線部、清掃部門、ランドリー部門、栄養部門、リハビリテーション部などがあげられる。

4. 感染対策における各部門の役割

ICTの役割

- 病院感染サーベイランス
- アウトブレイクの調査
- 教育
- 方針と手順の作成
- 職業感染対策プログラムの作成
- 環境整備
- 抗菌薬モニタリング
- 質の向上/質の保証
- 地域医療機関との連携



ICTの構成例

- 医師(内科系, 外科系)
- 看護師
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 栄養士(給食部門)
- 事務員 など

感染対策担当者

病院感染対策業務に関する企画立案および評価や病院職員の感染対策に関する意識向上や指導にあたる者をいう。

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師のいずれかの資格を有しているものが通常担う。

インфекションコントロール ドクター(ICD)の役割

- 病院感染の実態調査(サーベイランス)
- 病院感染対策の立案と実施
- 対策の評価および対策の見直し
- 職員の教育・啓発
- 病院感染多発(アウトブレイク)時の対応
- 伝染性感染症発症時の対応

感染管理認定看護師 (CNIC)の役割

- マニュアルの作成
- 指導・教育(スタッフ・患者など)
- コンサルテーション
- サーベイランス
- 調査(アウトブレイク)
- 職員健康管理部門との連携
- 保健所などの外部機関との折衝

感染対策に係る資格制度

資格制度名	資格認定の運営母体	認定開始時期
インфекションコントロールドクター (ICD)	ICD制度協議会	2000年
感染管理認定看護師 (CNIC)	日本看護協会	2001年
感染制御専門薬剤師 (BCICPS)	日本病院薬剤師会	2006年
感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)	日本臨床微生物学会	2007年

感染対策における 薬剤部門の役割

- 抗菌薬の適正使用への連携
- 消毒薬の適正使用の推進
- 注射薬の無菌的混合作業の推進
- 感染対策担当者との情報交換

感染対策における 微生物検査部門の役割

- 感染症の原因菌の正確な同定
- 抗菌薬感受性検査の実施
- 検査結果の迅速な情報提供
- 分離菌の疫学情報の還元
- サーベイランスへの参加
- 病院環境の微生物検査の実施(必要時)
- 感染対策担当者との情報交換

病院スタッフの役割

感染対策はすべての職員に関わる課題であり、すべての職員が感染対策に参加することが求められる。

Q & A (1)

医療関連感染とは、医療機関（在宅医療も含む）において患者が原疾患とは別に罹患した感染症をいう。

YES

NO

Q & A (2)

病院内感染は、入院患者の約1%未満で、非常に少ない。

YES

NO

入院患者の5～10%が入院中に感染症に罹患するとされ、罹患率や死亡率の増加のみならず、医療費の増加の問題も指摘されている。

Q & A (3)

ICTは実働組織なので、ベッドサイドケアに直接かかわる医師、看護師のみで組織するとよい。

YES

NO

病院感染対策は病院全体で連携して取り組むものであり、ICTは各部門代表者による構成が推奨される。

Q & A (4)

感染対策の目標は、患者や医療従事者、
来訪者などの安全を確保し、コスト効率
の良い方法で達成することである。

YES

NO

Q & A (5)

感染対策担当者が行う主な業務で適切なものはどれですか。

- a) 感染対策マニュアルの作成
- b) 医療関連サーベイランス
- c) 感染症治療

解答 : a),b)

引用文献

1. 小林寛伊. 感染制御とは. 小林寛伊, 吉倉廣, 荒川宜親 編, エビデンスに基づいた感染制御 改訂2版 第1集～第3集, メヂカルフレンド社. 東京. 2003. p.3-12.
2. 倉辻忠俊, 吉倉廣, 宮崎久義, 切替照雄 編, 院内感染防止手順, インфекションコントロールチーム, メヂカルフレンド社. 東京. 2004. P.6-17
3. 厚生労働省. 良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律(法律第八十四号)
4. 国立病院機構大阪医療センター感染対策委員会・ICHG研究会 編, 新・院内感染予防対策ハンドブック, 感染予防対策に関連する組織, 南江堂. 東京と. 2006. P.8-10
5. 高野八百子, 満田年宏 編, 感染対策ICT教育・活動ガイド, ICTメンバーになったらどうする, メディカ出版. 大阪. 2003. 41-76